

八戸工業大学総合教育センターにおける導入・転換教育の試み

高橋 哲徳*・高橋 史朗*・川守田 礼子**

A Report on an Introductory Education by Center for Liberal Arts and Technology of Hachinohe Institute of Technology

Tetsunori TAKAHASHI, Fumiaki TAKAHASHI and Reiko KAWAMORITA

Abstract

In this report, we will explain a new small-class introductory education by Center for Liberal Arts and Technology mainly aiming for the improvement of university students' reading and writing skills, based on the reevaluation of the importance of Japanese and the liberal arts education and an analysis of a recent nationwide problem of degradation of students' basic ability.

Keywords: an introductory education, degradation, Japanese and the liberal arts education

第1章 大学教育の現状

1. はじめに

少子化に伴う18歳人口の減少が、日本の大学が置かれている環境に重大な影響をもたらしていることは、今更言をまたない。株式会社進研アドの「99年度進研入試動向報告会」資料によれば、これまで比較的受験生が確保されていた関東地区においても、本格的な受験生の減少が始まったとされている¹。平成15年までに、さらに急速な受験人口の減少が予想される現下の状況にあっては、これまでの大学のあり方自体が問われているとあってよいだろう。

このような状況下において、特に私立大学は、大学改革の方向性を幅広くもっていなければならない。入試や学科構成といった制度面の改革が必要であるのはいうまでもないが、学生の満足度を高め、魅力ある教育内容とするための、質

的な向上も同時に進めなければならない。八戸工業大学では、AO入試の導入をはじめとする入試制度の改善といった制度面の改革が始まっているが、これと同時に、カリキュラムの改訂を柱とする教育の質的改革に着手し、それを実りあるものとする必要がある。本稿は、そのような背景から、平成12年度に八戸工業大学総合教育センターにおいて試みられた、新しい教育プログラムの経過とその報告である。

2. 現下の大学教育の問題点としての学力不足

現在の日本の大学教育は、戦後最も厳しい批判に晒されているといえる。これまでの大学に対する批判は、大学紛争時の大学の荒廃や受験の難化といった大学の教育内容との直接的な結びつきが曖昧な要因によって引き起こされたものだったが、現在の学力低下問題は、大学教育の質や体制に対する批判であり、大学の根本を問うものとなっているからである。

この学力不足問題の原因について包括的にま

平成12年10月13日受理

* 総合教育センター・講師

** 総合教育センター・非常勤講師